

禪學研究 總目次

自第一號 至第五三號

第一號 (大正一四・三・二〇)

順中論義入大般若波羅蜜經初品法門に就て

對佛教關係に於ける信長觀

禪宗安心の要諦

芭蕉を中心とする俳諧と禪との關係

スピノーザの思想に關して

世尊偈を讀む

プロチヌスに於ける睿智的なるものについて

第二號 (大正一五・三・一〇)

四卷楞伽について

高麗の禪宗

老莊と禪

神の認識

五位の體驗的地位と其考察

無の意義

尺八と禪僧に於ての一考察

象徴から禪への考察

禪學の一方方法

倫理より見たる金剛經

第三號 (大正一五・一・一一)

無佛性話の考察

六祖慧能の禪

臨濟大師の時代と其思想

鎌倉時代の禪宗諸派と密教 (一)

「色」に就いて

日本撰述臨濟語錄の解題

第四號 (昭和二・四・二五)

禪宗と「般若心經」

鎌倉時代の禪宗諸派と密教 (二)

禪經に記せる觀佛

第五號 (昭和二・一・二五)

達磨大師の教系に就いて

福富 洪國

足立 禪悅

森 自光

日種 讓山

鈴木 大拙

伊藤 古鑑

大屋 徳城

市川 白弦

後藤 光村

鈴木 大拙

大屋 徳城

徳永 圓應

松本文三郎

- 性善論の研究 (一)
六祖慧能禪師史傳並に「法寶壇經」研究
話頭の考察
- 第六號 (昭和三・四・八)
- 眞妄に關する研究
禪の辨證
性善論の研究 (二)
禪宗より見たる佛身觀
- 第七號 (昭和三・七・一)
- 宗教の本質より見たる禪
清儒俞曲園とその金剛經注 (一)
性善論の研究 (三)
寶藏論に現はれた僧肇の思想 (二)
- 第八號 (昭和四・一・二〇)
- 清儒俞曲園とその金剛經注 (二)
宗教の本質より見たる禪 (二)
話頭の考察 (二)
寶藏論に現はれた僧肇の思想 (二)
- 第九號 (昭和四・三・二八)
- 體系としての心、序説
清儒俞曲園とその金剛經注 (三)
鎌倉時代に於ける關東の禪 (一)
- 手島 文倉
中條 東阜
日種 讓山
- 第十號 (昭和四・六・二八)
- 清規を中心と 作務考序説 (一)
王陽明の人生觀
鎌倉時代に於ける關東の禪 (二)
清規を中心と 作務考序説 (二)
禪戒と五戒 但し殺・淫二戒を選ぶ (二)
- 第十一號 (昭和四・一二・二八)
- 禪宗の立祖相承に就て (一)
新觀念形態に於ける宗教否定と禪
禪戒と五戒 但し殺・淫二戒を選ぶ (二)
宗密禪師の禪教一致論に就て (二)
道徳律と宗教律
- 第十二號 (昭和五・三・二八)
- 辨證法の諸相
禪宗の立祖相承に就て (二)
新觀念形態に於ける宗教否定と禪 (二)
宗密禪師の禪教一致論について (二)
- 第十三號 (昭和五・七・二八)
- 禪宗の立祖相承に就て (三)
禪戒存立の根據に就て
首楞嚴三昧の研究 (二)
- 稲葉 明道
高瀬武次郎
大屋 徳城
稲葉 明道
佐藤 謙一
伊藤 古鑑
市川 白弦
佐藤 謙一
安藤 義鑑
久松 眞一
小笠原秀實
伊藤 古鑑
市川 白弦
安藤 義鑑
伊藤 古鑑
釘宮 武雄
早苗 亮雄
- 福嶋 俊翁
柴野 恭堂
日種 讓山
藤田 溪山
- 小笠原秀實
福嶋 俊翁
大屋 徳城
- 福嶋 俊翁
柴野 恭堂
日種 讓山
藤田 溪山
- 伊藤 古鑑
手島 文倉
鎌田 禪商
- 福嶋 俊翁
柴野 恭堂
福嶋 俊翁
手島 文倉
藤田 溪山
- 伊藤 古鑑
手島 文倉
鎌田 禪商

信心銘に現れたる禪の心性觀

第十四號 (昭和六・一・一〇)

三祖癡禪師に就て

鎌倉時代に於ける關東の禪 (三)

首楞嚴三昧の研究 (二)

楞伽經に於ける自覺聖智の境界に就いて

第十五號 (昭和六・三・一七)

鎌倉時代に於ける關東の禪 (四)

宗教の獨立性について (二)

儒學史上に於ける朱子學と禪 (二)

公案の研究に就て

第十六號 (昭和六・一二・一〇)

禪宗の教學發達に就て (二)

六祖大師の證悟と中心思想の考察

ウパニシャッドの神祕主義に就て (二)

無著禪師の思想

第十七號 (昭和七・三・二〇)

禪宗の教學の發達に就て (二)

六祖壇經の書志學的研究 (上)

ウパニシャッドの神祕主義に就て (二)

第十八號 (昭和七・七・一〇)

禪宗の教學發達に就て (三)

日種 讓山

六祖壇經の書志學的研究 (下)
普賢行と正受三昧 (二)

第十九號 (昭和七・一二・二)

松本文三郎

大屋 徳城

早苗 亮雄

齋藤 詰定

大屋 徳城

柴野 恭堂

安田 正

日種 讓山

伊藤 古鑑

日種 讓山

横山 讓山

横山 義孝

南川 宗謙

伊藤 古鑑

伊藤 古鑑

松本文三郎

横山 義孝

伊藤 古鑑

伊藤 古鑑

伊藤 古鑑

松本文三郎
孫 垣均

林 岱雲

釘宮 武雄

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

孫 垣均

元延祐 高麗刻本
六祖大師法寶壇經

虎關禪師と其の學
肇論の研究 (三)

仁王般若經に就て

第二十三號 (昭和一〇・七・一〇)

印度の大乗 智と識との限界論 (二)

神祕主義と辨證法
肇論の研究 (二)

印度の大乗 智と識との限界論 (二)

苦提心
有分別智の構成及び性質に就て (下)

柴野 恭堂

釜淵 清英

釋 研道

釜淵 清英

玉置 靄晃

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

釜淵 清英

元延祐六祖大師法寶壇經に就て
高麗刻本

大屋 徳城

The Zen Way of Life
Sōhaku Ogata.
第二十七號 (昭和一二・七・一〇)

—六祖大師研究資料—
第二十四號 (昭和一〇・一二・一五)

眞佛の所在

久松 眞一

般若の空を論じて禪宗の般若觀に及ぶ

伊藤 古鑑

無聖なるものに就いて (上)

飯田 玄猷

黄蘗禪師の禪法 (上)

日種 讓山

相關的思辨の基本分析

小笠原秀實

「妙心寺六百年史」年表

柴野 恭堂

翻譯考

玉置 船晃

第二十五號 (昭和一一・七・五)

華嚴の教王

淺井 潔

黄蘗禪師の禪法 (下)

日種 讓山

—因分果分に就いて—

理欲論 (上)

崎山 宗秀

第二十八號 (昭和二三・三・一)

日種 讓山

大愚宗築禪師の行狀

松倉 全鼎

話頭の考察

日種 讓山

六祖大師の中心思想

勝峰 修

理欲論 (中)

崎山 宗秀

カントの動機論

濱岡 宏亘

黄蘗禪師の「心」の考察 (上)

古田 宗忠

第二十六號 (昭和一一・一二・二五)

無聖なるものに就いて (下)

飯田 玄猷

禪海一瀾夕死第十則

後藤 瑞巖

—超越的聖の否定的内在性—

近藤 全忠

馬祖大師の禪

伊藤 古鑑

坐禪儀に就いて

小林 正空

六祖大師の「心理學」

今長谷蘭山

リップスの人格論

近藤 全忠

東洋の時間について

九鬼周造著
和久信章譯

最近禪宗學界展望

小林 正空

人間性の限界の非合理

柴野 恭堂

第二十九號 (昭和二三・七・一〇)

福嶋 俊翁

—現代宗教哲學の中心問題について—

下村寅太郎

六祖慧能禪師と文人との關係に就て

福嶋 俊翁

論理學の歴史の理念

本田 蔭軒

本末關係の考察

福場 保洲

人文教育と漢文

林 岱雲

—社會學的一二の問題に就て—

古田 宗忠

東大寺再建と榮西禪師

林 岱雲

黄蘗禪師の「心」の考察 (下)

古田 宗忠

老子に於ける道の認識の問題

秋山 達三

江戸時代の禪宗

市川 白菰

王陽明佛利巡歴年譜諸會要 (一)

久須本文雄

禪と茶道

柴山 全慶

最近禪宗學界展望

戰爭と國民學

鈴木 重雅

第三十號 (昭和一四・三・二)

宗教の眞理性の問題と「法」について

柴野 恭堂

武士道と禪

木村 靜雄

三玄三要に就て

對本 愛道

夢窓國師

一井 明文

支那精神

市川 白菰

菊地氏と大智禪師

釘宮 武雄

王陽明佛利巡歸年譜會要 (二)

久須本文雄

虎關師鍊と元亨釋書

福嶋 俊翁

禪宗學關係論文目錄

白隱禪師

對本 愛道

第三十一號 (昭和一四・七・一五)

禪宗勃興期に於ける近代的諸要素

小笠原秀實

天章禪師の事跡

荻須 純道

古清規考

木村 靜雄

臨濟の四料揀より根器分別に及ぶ

伊藤 古鑑

宗教々育と宗教生活への内省 (上)

近藤 了徹

性起に就て

淺井 潔

王陽明佛利巡歴年譜會要 (三)

久須本文雄

自然と運命

長澤 信壽

第三十二號 (昭和一四・一一・一五)

花園天皇の證道

小笠原秀實

宗教々育と宗教生活への内省 (下)

近藤 了徹

興禪と妙心寺

長谷部宗鑑

禪と東洋文化

久松 眞一

興禪の論理

柴野 恭堂

東洋文化の基本的性格

柴野 恭堂

東亞の禪

緒方 宗博

東洋に於ける畫論の骨格

小笠原秀實

興禪の意義

伊藤 古鑑

宋元文化の移植と禪宗

大屋 徳城

支那的と日本の

福場 保洲

三教調和の過程

崎山 宗秀

鎌倉時代の禪宗

大屋 徳城

斯經禪師の茶道觀

柴山 全慶

- 禪宗の佛像に就て
 禪宗の傳統說に就て
 禪宗教團に於ける經濟生活上の態度に就て
 第三十五號 (昭和一六・六・二〇)
 花園法皇と禪
 本體的なるものへの具象的考察
 利久居士の遺偈について
 白幽子史實の新探究
 禪宗學關係論文目錄
 第三十六號 (昭和一七・三・二〇)
 隱溪禪師の儒佛合論
 初期禪宗史に於ける悟と修の問題
 唯識說理解の立場について
 第三十七號 (昭和一七・一〇・一〇)
 禪宗の傳燈に就て
 虎關宛詞
 終南山至相寺
 むすびに就て
 白幽子史實の新探究 (續)
 神祇に關する花園天皇の態度
 大蟲宗岑禪師讚仰
 法問題の一考察
 伊藤 古鑑
 鈴木 宗忠
 福場 保洲
 鎌田 禪商
 小笠原秀實
 近重 眞澄
 伊藤 和男
 福嶋 俊翁
 木村 靜雄
 向田 永靜
 伊藤 古鑑
 福嶋 俊翁
 古田 紹欽
 福場 保洲
 伊藤 和男
 鎌田 禪商
 松田 奉行
 緒方 宗博
 王法不思議
 禪學の構造
 末法時代と我國中世禪僧の態度
 王陽明の思想と六祖法實壇經
 職能の倫理
 牧牛について
 第三十八號 (昭和一八・一二・八)
 白隱系看話の一管見
 無明の構造
 句龍考
 佛頂國師語錄拾遺に就いて
 拔除禪師の和文法語に就いて
 拔除禪師の公案禪
 第三十九號 (昭和二一・六・一二)
 禪界刷新
 禪教養普遍化に關する圖式
 宗教の主體的本來性
 禪の近代化に就て
 禪學刷新の一指標 (禪の政治倫理)
 第四十號 (昭和二二・三・一)
 禪一般と禪堂教育の近代化
 集團健實性の問題
 山田 虛室
 對本 愛道
 荻須 純道
 久須本文雄
 市川 白弦
 柴野 恭堂
 柴山 全慶
 伊藤 和男
 森 安太郎
 鎌田 禪商
 古田 紹欽
 市川 白弦
 鈴木 大拙
 小笠原秀實
 柴野 恭堂
 古田 紹欽
 市川 白弦
 鈴木 大拙
 小笠原秀實

近代中國に於ける居士佛教に就て
出家思想の社會倫理學的考察

荻須 純道
市川 白弦

譚嗣同の仁學に就いて (一)
梵文金剛經を讀む
佛教學の反省

福嶋 俊翁
伊藤 和男
竹貫 純一

利久の遺囑に就いて

柴山 全慶

第四十四號 (昭和二八・一〇・一五)

宗教的理念

柴野 恭堂

中國佛教々團の制度並に儀禮に關する
諸文獻の考察 (其の一)

今津 洪嶽

譚嗣同の仁學に就いて (二)

福嶋 俊翁

佛壇の成立する民俗學的論理

竹田 聽洲

泰明期の安南佛教

川上 正史

——常民の家と祖靈と佛教との關係——

横井 聖山

古林清茂とその主なる門下

古田 紹欽

「祖堂集」の資料的價值 (一)
古清規について

大石 守雄

第四十二號 (昭和二六・三・一)

宗教的方法の問題序説

久松 眞一

第四十五號 (昭和二九・一二・一五)

研究對象としての佛教

小笠原秀實

臨濟大師の教學的基盤 (其二)

今津 洪嶽

——言葉及び概念からの離脱——

玉村 竹二

關山慧玄禪師の頂相について

荻須 純道

足利義持の禪宗信仰に就いて

荻須 純道

宋學の源流に於ける禪的環境
東洋的個 (一)

久須本文雄

五山に投影したる中國文化

——特に思想に就いて——

大鑑清規の研究

秋月 龍混

臨濟錄に關する新見解

篠原 壽雄

第四十六號 (昭和三一・二・一五)

——臨濟錄札記抄(一)——

篠原 壽雄

臨濟大師の教學的基盤 (其二)
本有円成佛について
即非の論理 (一)

今津 洪嶽

第四十三號 (昭和二七・七・一)

臨濟錄の成立に關する書誌學的考察

今津 洪嶽

緣起說開展史上に於ける三性說

伊藤 古鑑

「臨濟正宗」に就いて

柴山 全慶

關山慧玄禪師遺誡について

秋月 龍珉

臨濟錄の序者郭天錫について

陸川 堆雲

關山慧玄禪師遺誡について

石川 良昱

臨濟錄の舊訓批判——臨濟錄札記抄(一)——

篠原 壽雄

關山慧玄禪師遺誡について

荻須 純道

第四十七號 (昭和三二・三・二)

臨濟大師の教學的基盤 (其三)

臨濟傳及び臨濟錄考異

三法無差について

即非の論理 (Ⅰ) 西田哲學解釋の問題

東嶺和尙の無盡燈論の神道思想及び

吾道官緣由について

第四十八號 (昭和三三・三・八)

成佛とは佛

禪の哲學

瑠璃殿上 (碧巖第十八則) の考察

興化存獎の史傳とその語録

向上の些子

第四十九號 (昭和三四・二・二〇)

愚堂國師の禪

京都禪と鎌倉禪

虚堂と大應との相契

禪の哲學 (Ⅰ)

老莊的人間觀

佛教における戰爭體驗

日本における宗教と自殺の問題

圭峰宗密の「知」の思想について

孟蘭盆考

黄蘗清規の研究

第五十號 (昭和三五・二・二〇)

禪と戒とについて

大燈禪の獨自性

禪の哲學 (Ⅱ)

南院慧顛

禪宗初期の修道論

佛教における戰爭體驗 (Ⅱ)

日本文化と宗教

禪の回心

P・ドミエヴィル 靈鏡

清規にあらわれた年中行事

第五十一號 (昭和三六・二・二〇)

花園天皇の御影について

關山禪師の生年説について

李翱の學禪と復性書

臨濟栽松の話と風穴延沼の出生

初期修禪の二型態

全體作用の歴史性

鈴木正三の禪風について

——禪と念佛との邂逅——

今津 洪嶽

柴野 恭堂

伊藤 古鑑

秋月 龍珉

陸川 堆雲

平田 高士

伊藤 古鑑

大井 際斷

陸川 堆雲

横井 聖山

二階堂順治

伊藤 古鑑

荻須 純道

柳田 聖山

大井 際斷

福嶋 俊翁

市川 白弦

稻岡 順雄

小林 圓照

横山 文綱

大石 守雄

伊藤 古鑑

荻須 純道

大井 際斷

柳田 聖山

木村 靜雄

市川 白弦

稻岡 順雄

二階堂順治

増美 譯註

大石 守雄

森 暢

荻須 純道

福嶋 俊翁

柳田 聖山

木村 靜雄

柴野 恭堂

藤吉 慈海

不死・永生・不生

——東西における死の自覺——

石州流茶道の性格

日本における賤民思想と宗教の問題

佛教における戦争體驗 ㉓

日本の禪宗寺院に關する考察

禪僧の文學觀

一行三昧私考

ドイツ語における最近の禪の紹介書

第五十二號 (昭和三七・三・三一)

妙心寺の開創について

蔭涼寺と白隠及び關係の人々

臨濟錄ノート

日本禪宗寺院に關する考察 ㉒

佛教における戦争體驗 ㉒

呪術論

メーグハシユリー比丘の法門

——ガンダヴェューハの思想史的研究のための覺書——

大般若經の民俗信仰について

On Hakuin's "Commentary and Poems on Prajñā paramita-hridaya-sūtra" (1)

Eshin Nishimura

阿部 正雄

藤 直幹

稲岡 順雄

市川 白弦

大石 守雄

横山 文綱

小林 圓照

平田 高士

荻須 純道

陸川 堆雲

柳田 聖山

大石 守雄

市川 白弦

稲岡 順雄

小林 圓照

橘 恭堂

第五十三號 (昭和三八・七・一一)

佛教における戦争體驗 ㉔

傳法實紀とその作者

方廣寺創立年次の考證

達磨多羅禪經說通考疏について

——白隠禪の一側面——

周子思想における禪的なもの

禪僧の文學觀——義堂周信の場合——

夫龍伊松禪師傳考

日本禪宗寺院に關する考察 ㉑

——和漢禪刹次第の研究——

宗教儀禮の問題

サーガラ・メーグハ比丘の法門

——ガンダヴェューハの思想史的研究のための覺書——

紀州隅田大高能寺藏大般若經について

——東福寺正統庵版の書誌學的研究——

胡適博士の手紙

On Taishi, the great Death, in Zen Experience.

第五十四號 (昭和三九・三・三一)

築西の一心戒についで

祖堂集の本文研究

市川 白弦

柳田 聖山

林 岱雲

木村 靜雄

久須本文雄

横山 文綱

陸川 堆雲

大石 守雄

稲岡 順雄

小林 圓照

橘 恭堂

柳田 聖山

荻須 純道

柳田 聖山

橘 恭堂

柳田 聖山

柳田 聖山

柳田 聖山

柳田 聖山

柳田 聖山

柳田 聖山

坐忘について	藤吉 慈海
梅天和尙の禪風	横山 文綱
清規の研究	大石 守雄
朱子學禪考	久須本文雄
中世能樂論の禪的性格	藤 直幹
不生と往生	阿部 正雄
雜集論における藏・漢兩所傳	高崎 正芳
普遍的苦惱	市川 白弦
宗教と資本主義	稻岡 順雄
日本禪宗教團と庶民の葬送儀禮	橋 恭堂
宗教經驗の四規範をめぐるて ——見性經驗と普遍性と特性を論ず——	西村 惠信
天臺止觀の一考察	鶯阪 宗演
久松眞一先生「東洋的無の性格」獨譯	平田 高士